

# 上野幌・青葉地域

## 小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしてまいります。

2015.1.20 第3号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

### 第3回検討委員会 について

平成26年12月6日（土）午後6時から、上野幌西小学校で第3回の検討委員会を開催しました。

まず事務局から、個別に寄せられた意見が報告されました。その後、前回の検討委員会の中で発案があった統合パターン案を含め、統合の効果や課題などについて検討を行いました。

### 報告事項

#### 個別に寄せられた 意見について

第2回検討委員会以降、電話とホームページに各1件、計2件の意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 検討委員会の傍聴及び発言はできないのか。
- 国道274号を横断させるのは危険だと思う。
- 学校を統合することについては、異論はない。

（事務局回答）

第1回検討委員会で、この検討委員会は非公開であることが決定したため、ご意見は随時、検討委員会事務局へいただければ報告する旨回答しています。 （平成26年11月、電話）

- 学校を統合すること自体は決定事項なのか。
- 統合するとすれば年度はいつか。
- 近所で2年後に統合決定という噂を耳にして不安である。

（事務局回答）

この検討委員会では、最終的に学校統合が可能かどうかということを含めて議論していくこととしていますが、詳細の課題検討はこれからという状況であり、現段階では統合の可否や統合年度を判断するまでには至っていないこと、検討の状況は逐次ニュースでお知らせすることを回答しています。

（平成26年11月、ホームページ）

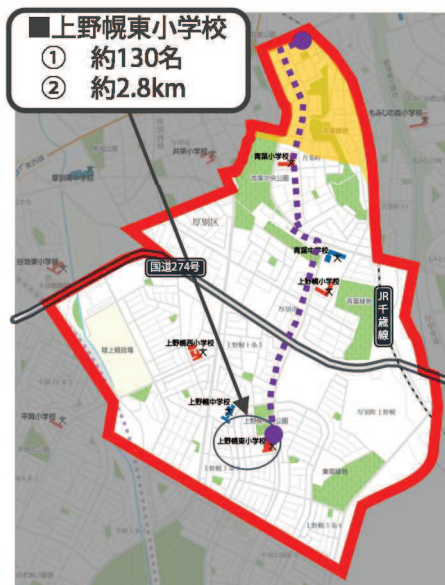
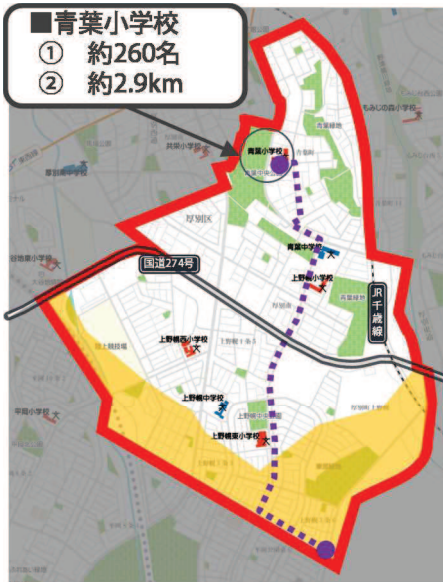
### 検討事項について

第3回検討委員会では、これまでの統合パターン案に加えて、新たに4校を1校に統合した場合も含め、検討を行いました。

## ■追加検討項目 4校を1校に統合した場合について

### ■各校舎を活用した場合の通学距離など

- ①通学距離が2 kmを超え、バス通学の検討が必要な児童の数 (図の黄色の範囲)
- ②一番遠くから通う児童の通学距離 (図の紫色の点線)



### ■4校を1校に統合した場合の児童数、学級数の推計

※26年度……平成26年5月1日時点の4校の児童数。  
27年度以降…平成26年5月1日時点の住民基本台帳における未就学児の人数に基づく。

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	130	4	148	5	149	5	148	5	119	4	107	4	114	4
2年	133	4	130	4	148	5	149	5	148	5	119	4	107	4
3年	164	5	133	4	130	4	148	4	149	4	148	4	119	3
4年	148	4	164	5	133	4	130	4	148	4	149	4	148	4
5年	184	5	148	4	164	5	133	4	130	4	148	4	149	4
6年	181	5	184	5	148	4	164	5	133	4	130	4	148	4
全学年	940	27	907	27	872	27	872	27	827	25	801	24	785	23

### ■検討が必要な事項

- ・通学の安全確保について。
- ・児童や保護者の交流について。
- ・特別支援学級の児童への対応について。
- ・スポーツ少年団の活動などについて。

### ■4校を1校へ統合した場合のメリット

- ・長期間に渡り、多くの児童数を確保できる。
- ・教育委員会の考える望ましい規模(18～24学級)を確保できる。

### ■4校を2校へ統合する場合と異なる主な検討事項

- ・校区が広範囲になり、活用する校舎によっては通学距離が2 kmを超えることが想定されるため、バス通学を検討する必要がある場合がある。
- ・児童を受け入れるためには、校舎の大規模な工事が必要となる場合が多く、工事の内容や期間を含めて検討する必要がある。
- ・通級指導教室、厚別南地区センターについての検討が必須となる。
- ・一つの小学校区に中学校が2校となるため、中学校についても検討する必要がある。
- ・国道274号を横断する際の安全確保について検討する必要がある。

## 統合パターン案に関する委員から寄せられた意見

統合パターン案の検討に関して、委員から以下のような主なご質問、ご意見がありました。

- 小学校区が中学校区より広くなることは、法律や規定などで問題ないのか。

(事務局回答)

札幌市では事例はありませんが、規定上認められないわけではありません。

- どのような組み合わせでも4校以外に近い学校があればその学校にいけるように校区を変更することが可能なのか。

(事務局回答)

距離的に近い学校へ通うことができるようにする区域を検討することは問題ありません。なお、校区の変更には、この検討委員会とは別に審議会などの承認が必要になります。

### <4校を1校に統合するパターン案について>

- 現段階で4校を1校に統合すると中学校に行く時にまた分かれてしまい、拙速である。
- 4校を1校に統合した場合、進学する中学校が2校に分かれる。文部科学省の動きとして小中連携の推進といったこともあるので、卒業生全員が同じ中学に進学するのが望ましいのではないか。
- 子どもの成長やコミュニケーション能力などを考えると、身の丈にあった校区の規模があるはずで、現時点で4校を1校にというのは尚早な気がする。
- 学校だけが子どもの活動範囲ではないので、4校が1校になり校区の端から端まで4～5kmに広がると、保護者としては防犯上で不安がある。
- 中央区の資生館小学校は4校を1校に統合して校区が広いが、子どもが遊ぶ範囲はある程度決まってくると聞いている。
- 保護者からすると、やはりバス通学には不安がある。
- 身近なところに子どもの気配を感じながら、地域が見守っていく。親もそれを感じていることが望ましい。
- 児童数だけを考えて1校にしてしまうのは抵抗がある。

### <通学などにおける国道274号の横断について>

- 国道274号は歩道のない狭い道路よりは安全である。
- 交通量や幅員よりも、地域の「見守り」など安全に対する協力がどこまでできるか議論することが重要である。
- 以前は国道274号を渡って通学していた。確かに危険もあったが、自分の身を守るための注意力や通学のための時間管理といった感覚を養うことができた。



### <その他の統合パターン案について>

- 青葉地域に関しては新札幌駅前の再開発や市営住宅のあり方など、今後のまちづくりが大きく変わる可能性があるため、地域の人口や子どもの数なども、将来的には増加する可能性があり、青葉小学校は適正化を考える必要がないのではないかと。
- 青葉小学校区の人口増加が見込まれるなら、3校（上野幌小学校、上野幌西小学校、上野幌東小学校）を1校にするのが良いのではないかと。
- （上野幌小学校、上野幌西小学校、上野幌東小学校の3校を1校にした場合）青葉小学校は当面現状と変わらない状況が続くことになってしまう。
- 4校を2校に統合した場合、近い将来また統合を考えなければならない状況になる。
- 統廃合は「痛み」を伴うが、大きくなった校区でコミュニケーションの幅が広がったり、危険を察知する能力が身につくといった前向きな捉え方もできる。

### <議論の進め方について>

- 学校だけでなく、放課後の交流でも子どもは成長していくので、通学の安全面だけでなく、子どもが交流できる範囲にも配慮して議論をすべきである。
- 統合が地域のためだけに行われるのではなく、あくまでも子どものためという視点で議論をすべきである。
- 統合の形を考えていく上で、お母さんたちの不安感を払しょくしなければ、話は進まないと思う。防犯面や安全面を地域住民の見守り活動などで、保障することが必要になってくると思う。

## 第4回検討委員会 について

第4回の検討委員会は2月下旬から3月上旬の開催を予定しており、引き続き統合パターン案などについて検討を行います。

ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい

### 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。  
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>